

スピーチを楽しむ10の技術

福岡県北九州市立貴船小学校

菊池 省三

スピーチを軌道にのせるには、相手が喜ぶ楽しいスピーチが必要である。今度はどうなお話が出るのだろうかとお聞き手が期待を待つようになればスピーチは成功といえる。

そのためには「楽しく話すスピーチ技術」が大切である。よい話し手を育てる「スピーチを楽しむ10の技術」を紹介する。

●技術1「メモを使って話す」

メモがあるとスピーチに自信がつく。はじめは文メモ。メモを見ないで言えるようになったら単語メモに変える。メモを作る前に、話す時間感覚を練習させるとよい。

十字3秒、二十字5秒、三十字7秒。

三十字以内でないと聞き手はよく聞いてくれない。だから、文は三十字以内で書く。30秒は4〜6文。1分間では8〜12文。

この時間感覚ができるとスピーチの時間に合ったメモが作れるようになる。

●技術2「実物を使って話す」

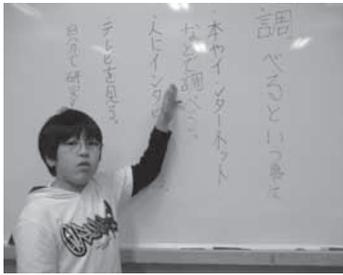
「私の好きな人形はこれです。」というように実物を見せて話す技術である。

ふくろの中からゆっくり出して見せるなど見せ方にもアイデアがあるが一番効果的なのは、聞き手が集中するので話し手も自然にメモから離れ表情や身ぶりも出てきて話しこたばになりやすいところである。

●技術3「黒板に書いて話す」

よい聞き手を育てることが、よい話し手が育つスタートである。

黒板に書いて解
説しながら話す
聞き手はよく聞
くようになる。
話し手のほう



も、はじめはメモを片手で時々見たりしているが、だんだんメモを見なくなる。話しながら組み立てられるようにしたいものである。

●技術4「図や表を使って話す」

グループで調べたことを聞き手が興味をもつように図や表にまとめさせる。その図や表を使って分かりやすく話させるのである。

この技術はとても大切である。

これからの社会や学校では、プロジェクトを組んで課題（話題）を見つけ、情報を収集し、プレゼンテーション（企画書）を提出して、企業や学校にその価値を認めさせるスピーチ能力が重要視されているからである。

●技術5「実際にやってみて話す」

実際に「その時」の様子をやってみながら話すということである。

オルガンを実際に弾いて話す。紹介する本の一節を朗読して話すなど応用は広いし、聞

き手の印象は非常に強く、話題はいつまでも残るであろう。

●技術6「アシスタントを使って話す」

「○○さん、チョット手伝ってください。」と指名をして「手を首にこんなふうにまいてください」と指示をして、二人でその時の状況を再現しながら説明する技術である。

アシスタントには感想を聞く。
状況をドキュメントタッチで客観化できる技術である。

●技術7「応答関係を使って話す」

「○○くん、立ってください。○○くんは、○年○組のどんなところが好きですか。」と意見を求めてから自分の考えを話したり、「私はバラの花が好きですが、○○さんはどんな花が好きですか。」と問いかけたり、「みなさん、私の宝物は次の三つのどれだと思いますか。」とクイズを出して話したり、スピーチの終わりに、「○○さん、私のスピーチはどんな内容だったか三つ言ってみてください。」と要点を聞いたりして、話し手と聞き手の間に、質疑応答の関係を作りながらスピーチをする技術である。スピーチは楽しいものだと感得させると同時に友達づくり、学級づくりにも非常に役立つ。

●技術8「数字や名前を入れて話す」

より具体的に話させる技術である。子どもは聞き手をあまり意識していない。自分が分かっていることをただ話せばいいと考えている。これでは聞き手にはイメージ豊かに伝わらない。そこで、

「数字を三つ入れて話しましょう。」
「人や物の名前を三つ入れて話しましょう。」
などと約束を決めて話をさせる。他にも約束を加えると、具体的に楽しい話になってくる。話し手も、自分の伝えたいことを強く意識するようになってくる。

●技術9「ナンバリング・ラベリングを使って話す」

この技術は、話したいことに番号や見出しをつけることである。この技術を身につけることによって、キチンと内容を整理して話すことができるようになってくる。

「みんなに伝えたいことを三つはなします。」
一つ目は、○○ということです。
二つ目は、△△ということです。
三つ目は、□□ということです。

この技術によって、いくつのポイントを話すのか、今はどんな内容を話しているのか、といったことが聞き手にも分かりやすく伝え

ることができるようになってくる。

●技術10「ユーモアを入れて話す」

子ども達は、ユーモアのあるスピーチが好きである。そのために、話題を工夫したい。子ども達にウケがいいのは、自分をネタにした失敗談や秘密の話である。

「こんなバカなことをしました。」
「そつと私の秘密をばらします。」
といった話題だと間違いなくウケる。また、「大人にいいたいこと」というテーマでも教室は笑顔でいっぱいになる。自然と表情、身ぶり手ぶりも出てきて、楽しいスピーチになってくるのである。

スピーチの前に、特定の人を話題にしたり、下品な内容を話したりしないようにクラスの約束を決めておくことも大切である。

●コラム

「礼、姿勢、目線、表情、身ぶり手ぶり」などの話す態度、「声の大きさ、速さ、発音、アクセント、抑揚、口調、間、息づかい」などの声の調子といったスピーチの基本となる技術は、相手意識や目的意識がついてくるとともに育っていくものであるから、速成指導はしないほうがよいようである。

きくち しよつぞう 「コミュニケーション指導を中心に楽しい授業づくりの実践研究を行っている。」